

平成 25 年度

事業所名 : グループホーム 宮ノ里 2号館

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390500122		
法人名	有限会社サザンクロス		
事業所名	グループホーム 宮ノ里 2号館		
所在地	〒025-0002 花巻市西宮野目第13地割121番2		
自己評価作成日	平成25年10月12日	評価結果市町村受理日	平成25年12月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/03/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=0390500122-00&PrefCd=03&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号
訪問調査日	平成25年10月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個々にあったケア、自分で出来る事を見付けてあげる(して頂く)。
1人1日1回は、笑顔になっていただく。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

2ユニット体制となって2年目、職員もケアマネジメントの理解とその運営に慣れてきている。招聘されその持味を如何なく発揮している管理者の地域への関わり方の上手さや、豊富な知識と技術、経験を職員に伝えており、これに応えるべく職員も学習意欲に燃せている。近隣との馴染み関係作りに取り組み、住民がお茶飲みや畑仕事の手伝いに来られるようになるなど、利用者と住民との日常的な触れ合いが行われている。利用者・家族とは、普段の会話や面会時のほか、年3回の家族会、家族アンケート等を通してその思いや要望をきめ細かく把握してケアに反映させている。家族には毎月「お便り」で利用者の生活の様子や健康状態等を丁寧に報告し安心感を持たれている。ケアの向上はスタッフ会議やケア場面で随時の研修・指導を行い、職員相互の情報の共有を図るための「申し送りノート」の活用のほか、ユニット間の研修等を通じて職員の学ぶ意欲と実践能力を高める努力をしている。なお、管理者は地域に出向き認知症に係る講演等を行うなど地域の高齢者の暮らしの支援にも努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

【評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会】

事業所名 : グループホーム 宮ノ里 2号館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を職員間で共有し日々の実践につなげている 利用者のできる事を見極め個々の力の発揮が出来るように取り組む	利用者のできる能力を大切にす視点から「できることをやっていただく」を理念とし、そのため利用者のできることをしっかりと把握することが大切との認識のもと、日常気づいたことを記録し、確認し合いながら、支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事に参加して頂いたり、観覧版を届けたり、花壇づくりや畑仕事を手伝って頂いたりしている	管理者をはじめとして職員の地道な活動、地域の方々と普段の会話を通じてホームへの理解が深まり、これが近隣の方と結びつきを強め、花壇作りや畑仕事のお手伝いを頂いたり、お茶のみに来ている。また傾聴や踊りのボランティア等の来訪や、地域の清掃活動に参加するなど、日常的な交流が深まっている。	当ホームは認知症ケアの専門拠点として地域にとって大切な社会資源として周知、理解を深めるため、周辺の学校や団体、住民等との多様な形での交流が深められることを期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者が地域に出向き認知症の講演をしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月ごとの会議には地域の方は勿論職員も参加し、意見交換をしている	会議では入退居状況や事業活動等を中心に報告し、それらの取り組みの意見交換をしたり、待機者問題や認知症ケアのあり方等を話題に取り上げている。進行役の方が利用者・家族に意見打診の誘導をするなど上手く活用している。	活動結果の報告が中心であるが、取り組みの振り返りや行事計画の中で委員や地域、家族の協力、支援のお願い、今後重視される地域包括ケアのあり方、徘徊問題への対応等をテーマにした話し合いも一考である。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には必ず出席をしてくれ、行政からの情報も伝えてくれる	運営推進会議に市の職員が出席されており、その機会を利用し相談や情報交換しているほか、何か相談事があるときは電話で相談をしたり、指導を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は家族からの要望であることもありますが、基本的に言葉使いも含め拘束しない様取り組んでいる	身体拘束防止・廃止マニュアルをもとに学習し身体拘束による弊害を理解している他、日々の取組で気付いた点があったときは記録し共有したり、スタッフ会議等で注意し合うなど、言葉による抑圧も含め拘束のない暮らしの支援に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待はどのようなものなのか理解し、防止できている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に後見人がついていない方もいますが職員全員の周知には至っていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に重要事項説明書で説明し理解を求めている 重度になったからと言って退所を強要することはない		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月に1回のケース記録等のお便りを出している他にどんな些細な事もご家族様に連絡し連携を図っている	運営推進会議や家族の来訪時、年3回の家族会のほか、家族アンケートを通じて、きめ細かく利用者・家族の要望・意見等を汲み上げ、例えば「テラスへの鉢植えの花」や「玄関に長椅子を」、「花壇整備」等の意見を頂き反映に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のスタッフ会議や日々の申し送りで実施されているし、代表者は年1回の職員との面談を実施している	代表者と職員との面談のほか、毎月のスタッフ会議や毎朝のミーティング、日々のケア場面における管理者・職員間のコミュニケーションを密にしながらサービス面や管理運営面について職員の意見・提言を引き出し運営に反映するよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は交代で研修に参加し、参加しなかった職員へスタッフ会議でフィードバックしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交換研修の実施予定		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	関わりを深める事から本人の気持ちの変化に気が付くように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族会を1年に3回実施しており、その中で話し合いの機会を設けている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族の希望や要望にはその都度対応し、相談に乗っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活者としての視点は日常的に管理者から指導されている 利用者との会話を大切に本人のできる事を見つけ何気ないところから支えるようにしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	離れて暮らしていても利用者の様子が分かる様に月1回のお便りや面会時に様子を伝えている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	生活歴の中から会話のヒントを得たり、利用者の得意なことをやって頂いている	馴染みの人との交流は減っているが、小学校の同級生が来訪され懐かしい思い出を語ったり、ご家族の来訪をお願いし理美容に行ってもらったり、月1回来訪する傾聴ボランティアとの話し合いなど、馴染み関係が継続するよう心がけ支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員はそっと見守りトラブルにならないようにサポートしているし、その日その時の状況に応じて一人にさせないような支援をしている		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時、職員が面会に行ったり亡くなった時はお別れに行ったり、その後も家族さんが施設を訪れたり関係は継続している			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	サービスが職員の考えにならないように選択できるような声掛けをしている	日頃から利用者が語る何気ない言葉や表情を大切にしており、その中から本人の思いや意図を推し量りながらその把握に努めている。その日々の気づきを「申し送りノート」に記入し、スタッフ会議等でその意図を確認しながらその思いに沿った支援に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本情報シートを利用し、ご家族様から情報を提供して頂いている			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方を職員間で話し合い一人一人の暮らしにつなげている			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成者だけがケアプランを作るのではなく職員全員で取り組んでいるし、家族会でご家族から確認して頂いている	介護計画は本人の「思い」や「願い」の実現に向けた本人らしい暮らしのためのケアプランの作成を基本としている。計画原案はモニタリングのうえ担当職員が作成し計画作成担当者がまとめている。3ヶ月毎に評価・見直しを行い状況に応じたケアの提供に努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の暮らしや体調不良等個別記録に残し申し送りで情報を共有しているし、変化のあった時はその都度解決するようにしている			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様の要望には出来るだけ添えるように連携をしながら取り組んでいる			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	傾聴ボランティアさんや床屋さんが毎月来所してくれているし、地元の神社への散歩の実践		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前のかかりつけ医の継続と受診時の職員対応及び医療機関への情報提供	医療受診は、原則として家族が付添うこととしているが、家庭の事情などにより家族が対応できないときは職員が同行している。受診結果は電話等で家族に報告するとともに、毎月の「お便り」で生活の様子と併せ健康状態も報告し安心感を持たれている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の申し送りで連携が取れているし、急変時は連絡指示を受けている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報提供表を作成し医療機関へ提出し、退院時は情報提供をして頂いているし、電話による相談等も実施している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期のあり方については学ぶ機会があるし、去年は利用者のエンド・オブ・ライフが実践できた	重度化や終末期への対応方針である指針を定めており、また看取り経験を踏まえ利用者・家族の意向に基づき支援したいとしている。なお、終末期の支援理解と利用者・家族の安心の確保のため、職員の終末期に対する学習等をより一層高めたいとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルがあるので徐々に出来てはいるが周知されていない		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中を想定した訓練は実施できているが夜間を想定した訓練は実施できていない	スプリンクラーや通報装置など整備しているほか、日中想定避難訓練を実施している。今後は夜間想定訓練のほか、被災時の近隣の支援協力体制の確立や地震時の防災避難マニュアル作成にも取り組み、防災安全確保に努めたいとしている。	夜間時は職員が少なく避難時の地域支援は非常に大切なことであることから、近隣の方々や地区消防隊の協力を得ながら支援体制の確立を図ると共に、地震や水害のマニュアル等の整備の検討を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	方言や本人の使っている言葉で対応することもありますが全職員が周知徹底できているわけではない	人生の先輩として自尊心を損ねないようにすることを基本に、また一人ひとりの生活暦に応じた丁寧な接し方や言葉づかいを心掛けているが、時々本人が使っている方言や言葉で受け答えする時もあるとしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の暮らしの中で自己選択、自己決定できる環境を作っているつもりであるが先走ってしまうこともある		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先にならないように管理者から指導されているので、その人が今、何をしたいのかを感じ取れるように努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	気を付けているつもりではいるがまだまだ介護者の思いが強いように思う		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	台所仕事等日常的に手伝って頂いているが一人一人の好みを把握する取り組みは出来ていない	1号館、2号館で身体状況に幾分差があるものの、食事準備や後片付け、テーブル・お茶碗拭きなどを自分の役割として行っている。また食事に変化と楽しみを味わうため季節の行事食のほか、外食に出掛けたり、弁当の配達等を取り入れながら、より食事が楽しめるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表の管理のもと、個々の状態に合わせて、水分摂取量を一日1,000cc～1,500ccに取り組んでいる 夜間は個々のペットボトルを準備している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアの実践が出来ているし、パタカラ体操も取り入れている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表を利用し、定時のトイレ誘導をしている	日常生活動作の低下からリハビリパンツの利用が多いが、一人ひとりの排泄パターンや表情を読み取りながらさり気なく声掛けをしてトイレへに誘導をしたり、ポータブルトイレの利用を促したり利用者が排泄失敗による羞恥心や不安を覚えないうよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来るだけ下剤に頼らないように乳製品を取り入れたり、弘前のカットリングを導入している また、日課として毎日ラジオ体操を実施している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	特に時間帯等は決めていない。個々の利用者のタイミングを計っているが楽しめる取り組みは出来ていない	入浴は日曜日以外はいつでも利用でき入浴時間は決めておらず、利用者の希望を推し量りながらタイミングを捉えて対応している。なお、徐々にではあるが重度化にあるため、入浴方法等に工夫をしながら支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は出来るだけ起きていて夜間にぐっすり眠れるような取り組みをしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理表を作成し、セットするときも確認しながら実施するように取り組んでいるし、調剤薬局との連携も図れている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	縫い物、畑仕事等個々の得意な事を日々の暮らしの中に取り入れている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に合った行事への参加やドライブを実施している	身体機能等の低下などから買い物など外出が難しくなってきたが、外気に触れることの大切さからホーム周辺や近くの三獄神社への散歩、周辺ドライブのほか、外食や季節に応じた花見、紅葉狩りなど、可能な限り希望を叶えるよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	殆どの利用者が金銭管理できないため個々に持たせてはいない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	訴えがあった時はその都度対応している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールに花を飾ったり廊下には季節ごとの写真を飾り利用者の方がわかりやすいようにしているしわかりやすいカレンダーもホールに貼ってある	1号館及び2号館とも居間、食堂、台所が一体で、職員、利用者は常にお互いの様子が分かり、会話もできて家庭的な雰囲気が感じられる。居間にはテレビ、ソファ(1ヶ所)が置かれ、壁には利用者の写真や絵画、職員・利用者の手作りの作品などが程よく飾られ、利用者がくつろいで居心地良く過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になれる居場所の確保は十分に出来ていない(ソファが1か所しかない)		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来ている方もいますが殆どは馴染みの物が揃っていない	居室には利用者の思い出となるキュービーさんや木彫りの民芸品など、持参した馴染みの置物が程よく置かれ、壁にカレンダーや家族の写真、自分の手作りの作品などが飾られており、思い思いに居心地良く過ごせるよう工夫が見られるが、2号館では、馴染みのものを持って来ている方は少ないとしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	床はフラットで段差が無く、それぞれの部屋には名前がはってあるし、トイレもわかりやすく絵が点いている		